

HELPMAN JAPAN 「介護職非従事者の意識調査」

離職率はホントに高い？ 働く実態とイメージにかい離

事実を知れば、就業・転職非意向者の12%が「働く意向あり」に変容

株式会社リクルートキャリア（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：小林 大三）が行う、日本の介護サービス業の就業人口を増やすためのプロジェクト『HELPMAN JAPAN』は、介護業界で働いていない人たちの、介護職に対する意識を明らかにするために、全国の介護職非従事者を対象に調査を実施いたしました。このたび調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

調査結果トピックス

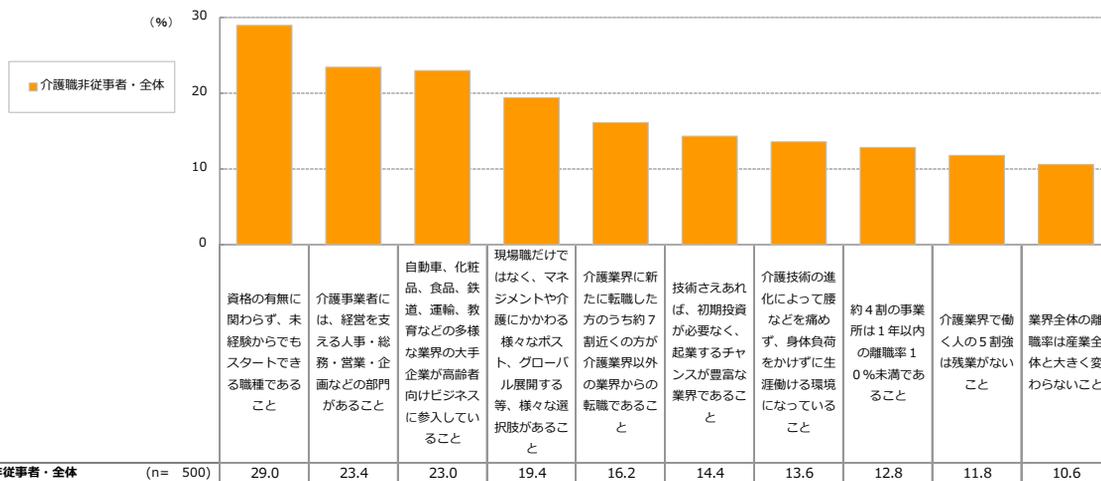
- 介護職非従事者が就業をためらう主な理由は「体力的にきつい仕事の多い業界だと思うから」（49.8%）と、「精神的にきつい仕事の多い業界だと思うから」（41.8%）。
- 働く環境については、実態に反しネガティブなイメージが定着している。「業界全体の離職率は産業全体と大きく変わらない」事実の認知率は10.6%だった。
- 同じく「介護技術の進化によって腰などを痛めず、身体負荷をかけずに生涯働ける環境になっていること」もほとんど認知されておらず（13.6%）、就業をためらう「体力的・精神的にきつそう」というイメージを後押ししている。
- 働く環境の実態を知ること、介護サービス業への就業・転職意向がなかった200人の内、24人が「意向あり」に変わった。
- 意向ありに変容した人は、主に「介護業界で働く人の5割強は残業がないこと」（45.8%）と、「約4割の事業所は1年以内の離職率10%未満であること」（41.7%）に魅力を感じている。

解説

なぜ介護業界は働く場として選ばれにくいのか。断言の難しいこのテーマと向き合うために、『HELPMAN JAPAN』は介護職に就いていない500人を対象にした意識調査を実施した。その結果、実態とかけ離れた思い込みが、介護職への就業を敬遠する原因になっているとわかった。

大事なものは、マイナスに働きがちな介護業界の見え方を正確に知り、求職者に対しては払拭するコミュニケーションを図ることだ。イメージだけで、介護が仕事として選ばれないのはもったいない。

□ 【介護】 事実認知状況：知っていた（介護職非従事者・全体／各単一回答）



【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社リクルートキャリア 広報部 社外広報グループ
TEL：03-3211-7117 MAIL：kouho@waku-2.com

【目次】

- 1) 介護サービス業への就業・転職に関する考え方・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2) 「介護サービス業の仕事」「介護業界」の事実に対する認知状況・・・・・・・・ 4
- 3) 【事実】を知った後の介護サービス業への就業・転職意向の変化と理由・・・・・・・・ 5

【調査概要】

【調査方法】

- WEB（インターネット）調査
マーケティングアプリケーションズ社の調査モニターを使用

【調査会社】

- 株式会社アンド・ディ

【調査期間】

- 2018年8月10日（金）～ 16日（木）

【調査対象】

- 18～59歳の全国の男女
- 1) 就業・転職意向者：今までに介護職従事経験がなく、介護サービス（高齢者分野：介護福祉士・ケアマネージャー等）の仕事、就業・転職の意向先として考えている
- 2) 就業・転職非意向者：今までに介護職従事経験がなく、介護サービス（高齢者分野：介護福祉士・ケアマネージャー等）の仕事、就業・転職の意向先として考えていない
- 調査対象別の回収数（下表参照）

□回収数		回収数	構成比
		(件)	(%)
調査対象別	1) 就業・転職意向者	300	60.0
	2) 就業・転職非意向者	200	40.0
全体	1) + 2)	500	100.0

1) 介護サービス業への就業・転職に関する考え方

「体力的・精神的な負担が大きい」イメージから、介護業界は敬遠されがち

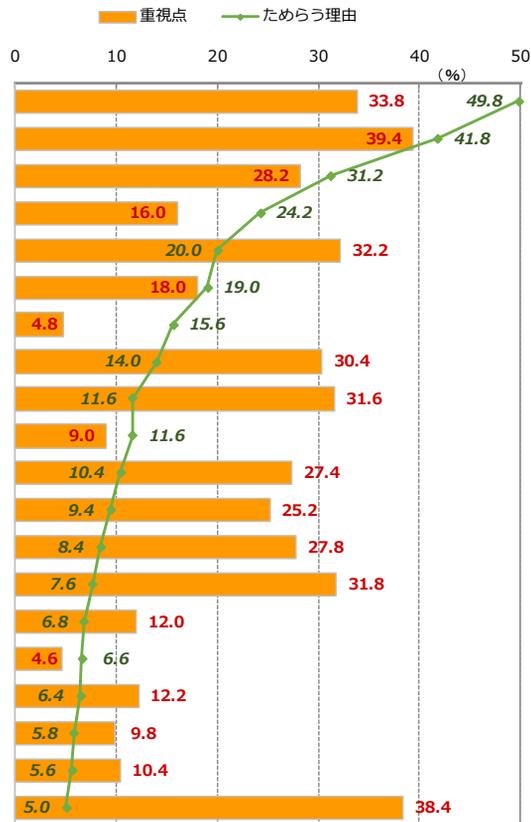
- 介護職非従事者が就業をためらう主な理由は「体力的にきつい仕事の多い業界だと思うから」(49.8%)と、「精神的にきつい仕事の多い業界だと思うから」(41.8%)。
- 他には、「給与水準が低めの業界だと思うから」(31.2%)や「離職率が高い業界だと思うから」(24.2%)などがためらう理由の上位に。

■ 就業先を探す際の重視点と介護業界への就業をためらう理由

□ 就業先を探す際の重視点と介護業界への就業をためらう理由 (介護職非従事者・全体/各複数回答)

選択肢の内容 (n=500)

就業先を探す際の重視点	介護業界への就業をためらう理由
体力的にそれほどきつい仕事ではないこと	体力的にきつい仕事の多い業界だと思うから
精神的にそれほどきつい仕事ではないこと	精神的にきつい仕事の多い業界だと思うから
給与水準が高いこと	給与水準が低めの業界だと思うから
離職率が低いこと	離職率が高い業界だと思うから
休暇が取りやすい雰囲気や仕組みがあること	休暇が取りやすい雰囲気や仕組みがなさそうな業界だと思うから
自分の志向・価値観に合致した仕事だと思えること	個人の向き・不向きのはっきりする業界だと思うから
他人の人生に関わることができること	他人の人生に関わるのが大変そうだと思うから
自分に合った勤務時間やシフトで働けること	自分に合った勤務時間やシフトで働けなさそうな業界だと思うから
給与体系が明確であること	給与体系が明確でない会社や施設等が多い業界だと思うから
人との交流がやりがいにつながる	人との交流が面倒くさい業界だと思うから
福利厚生が充実していること	福利厚生があまり充実していない業界だと思うから
雇用不安が少ないこと	雇用不安が大きい業界だと思うから
経営が安定していること	経営が不安定な企業・団体の多い業界だと思うから
仕事にやりがいがあること	仕事のやりがいあまり感じられないと思うから
妊娠や子育て、介護に配慮する雰囲気や制度があること	妊娠や子育て、介護に配慮する雰囲気や制度がなさそうな業界だと思うから
社会的地位・評判が高いこと	社会的地位・評判があまり高くない業界だと思うから
評価基準が明確であること	評価基準が明確でない会社や施設等が多い業界だと思うから
働いている人の個性や多様性を感じられること	働く人が特定の層に偏っている業界だと思うから
経営者に魅力を感じる	魅力ある経営者が少ない業界だと思うから
勤務地が自宅から近いこと	勤務地(勤務先)が自宅近くなさそうだから



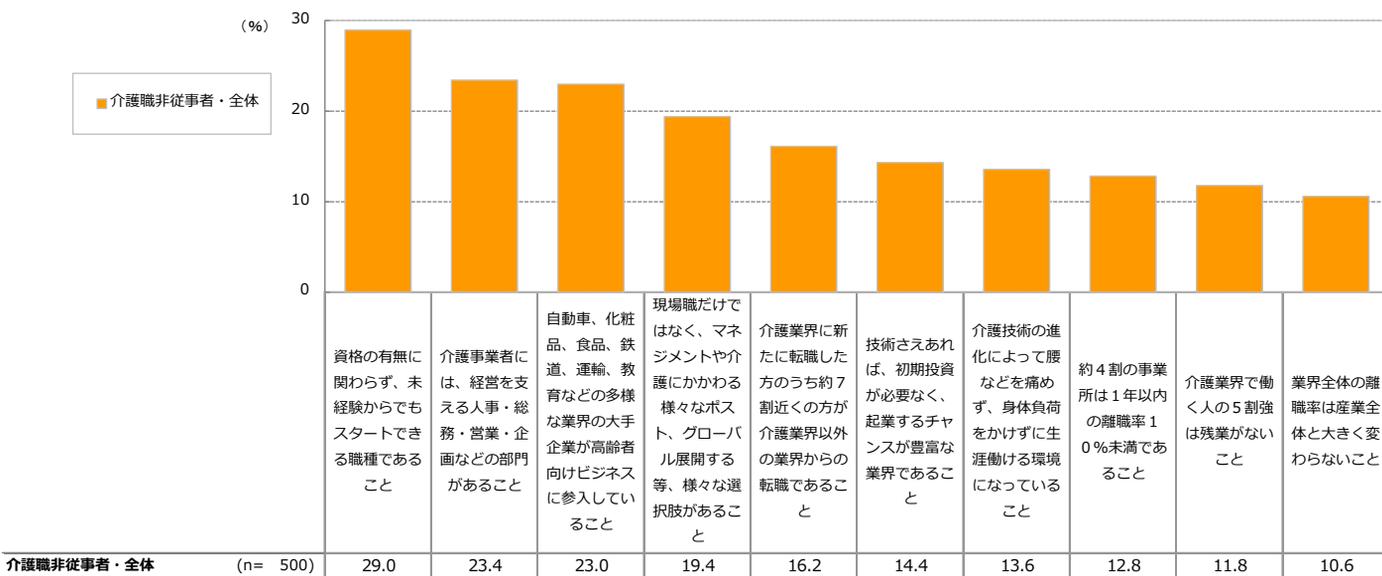
2) 「介護サービス業の仕事」「介護業界」の事実に対する認知状況

介護業界の働く環境は、実態に反しネガティブなイメージが定着している

- 「業界全体の離職率は産業全体と大きく変わらないこと」「約4割の事業所は1年以内の離職率が10%未満であること」という実態への認知は低く、それぞれ10.6%と12.8%。
- 「介護技術の進化によって腰などを痛めず、身体負荷をかけずに生涯働ける環境になっていること」もほとんど認知されておらず（13.6%）、就業をためらう「体力的・精神的にきつそう」というイメージを後押ししている。
- 10項目の事実のうち、最も認知率の高かった「資格の有無に関わらず、未経験からでもスタートできる職種であること」でさえ29.0%と3割を切った。

■【介護】事実認知状況

□【介護】事実認知状況：知っていた（介護職非従事者・全体/各単一回答）



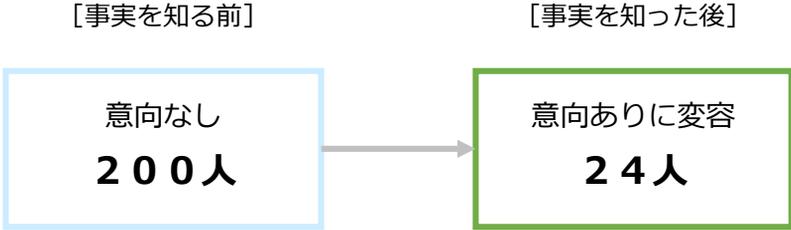
<出典> 公益財団法人 介護労働安定センター 「平成28年度 介護労働実態調査」より

3) 【事実】を知った後の就業・転職意向の変化と理由

介護職非従事者の中の「就業・転職非意向者」200人の内、24人が「意向あり」に変わった

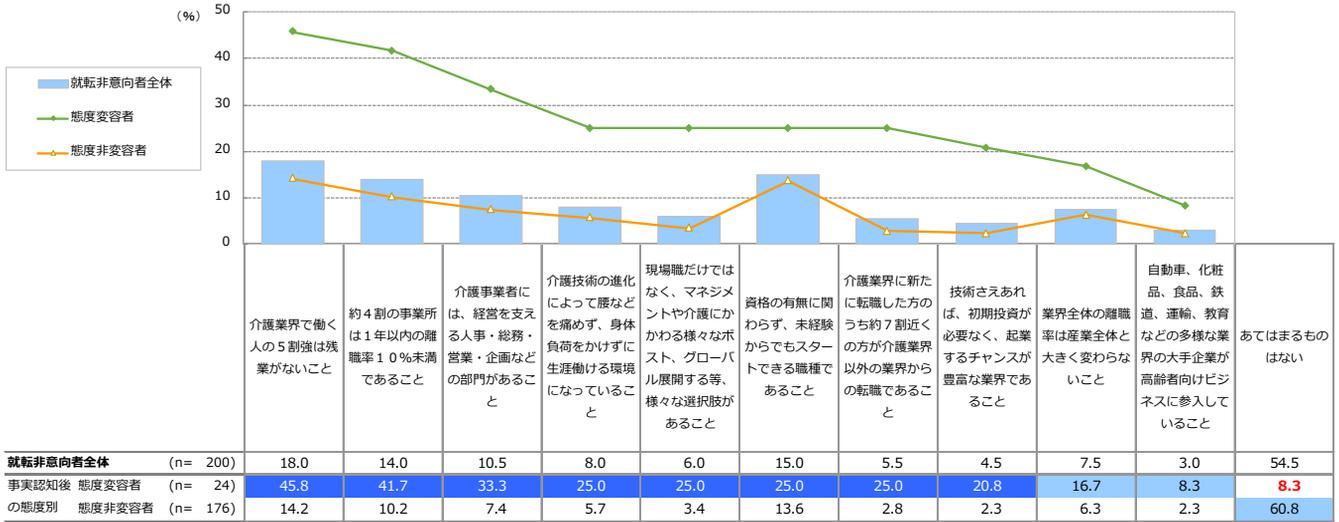
- 意向ありに変容した人は、主に「介護業界で働く人の5割強は残業がないこと」(45.8%)と、「約4割の事業所は1年以内の離職率10%未満であること」(41.7%)に魅力を感じている。

■ 「介護業界への就業・転職意向」の変化 (介護業界への就業・転職非意向者)



■ 【介護】事実について魅力を感じるもの (介護業界への就業・転職非意向者)

□ 【介護】事実について魅力を感じる部分 (介護業界への就業・転職非意向者/複数回答)



■ 【介護】事実を知った後の就業・転職意向の理由 [自由記述] (介護業界への就業・転職非意向者)

- 思っていたより働きやすそうなので (30代/女性)
- 需要の高さから (30代/男性)
- 体力的にも精神的にも辛く、離職率が高い業界と思っていたが違ったので (30代/男性)
- やりがいもあり身体的負担も少ない (40代/男性)
- やりがいがありそうだから (30代/女性)
- 素人であるので不安だが、できるかもしれないとも思った (50代/男性)